平成 28 年度 かながわの遺跡展・巡回展

かながわの最初の現代人

―旧石器時代のヒトと社会―

主催：神奈川県教育委員会
　　川崎市教育委員会
　　大磯町郷土資料館
共催：川崎市市民ミュージアム

遺跡展と同時開催　川崎市企画展

古代の瓦は語る

～遥かなる古代川崎に思いを馳せてみよう！！～

ごあいさつ

今から約３万８千年前に日本列島に最初にやってきた人々は私達と同じ現代人であったことがわかっています。後期旧石器時代の人々は生物学的に私達と同一の種 ホモ・サピエンス（現生人類）であるというだけでなく、彼らが残した石器などの道具や生活の跡は、それまでの化石人類にはみられない特徴をもっていることが近年の研究で明らかになってきました。

本展では、 現生人類に特有のものとされる行動ごとに、 県内の最近の出土資料を中心に展示することで、 遥か昔の人達と考えがちな旧石器時代の人々について、 現代の私達と通じる部分を探ります。

平成 28 年 12 月

神奈川県教育委員会
川崎市教育委員会
大磯町郷土資料館

目　　次

プロローグ　ー旧石器時代のヒトと社会ー　・・・・・・1
Ⅰ　解剖学的現代人　・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅱ　かながわの最初の現代人・・・・・・・・・・・・4
コラム１　古環境　・・・・・・・・・・6
Ⅲ　現代人的行動　・・・・・・・・・・・・・・・・7
ⅰ　石器製作技術における発明・創意工夫　・・8
ⅰ−1　石刃製作技術　・・・・・・・・・・・・8
ⅰ−2　細石刃製作技術・・・・・・・・・・・・10
ⅰ−3　尖頭器製作技術　・・・・・・・・・・12
ⅱ　調理技術における発明・創意工夫　・・・15
コラム２　石器の種類と用途　・・・16
ⅲ　計画性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
ⅲ−1　キャッシュ（備蓄）　・・・・・・・・・・17
ⅲ−2　海洋渡航　・・・・・・・・・・・・・・・18
ⅲ−3　遠隔地石材の調達　・・・・・・・・・・19
ⅳ　象徴性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
ⅴ　社会性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
コラム３　関東ローム層　・・・・24
Ⅳ・かながわの地域性　・・・・・・・・・・・・25
ⅰ　陥し穴猟　・・・・・・・・・・・・・・・・25
ⅱ　近傍石材の利用　・・・・・・・・・・・・26

川崎市企画展　・・・・・・・・・・・・・・・・・28

例　　言

○本冊子は、平成28年度かながわの遺跡展・巡回展『かながわの最初の現代人―旧石器時代のヒトと社会―』の展示図録です。

○本展は、神奈川県教育委員会（神奈川県埋蔵文化財センター）・川崎市教育委員会（遺跡展）・大磯町郷土資料館（巡回展）が主催し、川崎市市民ミュージアム（遺跡展）が共催するものです。

○展示会場と会期は次のとおりです。

遺跡展　川崎市市民ミュージアム　平成28年12月10日（土）～平成29年１月15日（日）
休館日は月曜日（ただし１月９日は開館）、年末年始（12月29日～１月３日）、１月10日

巡回展　大磯町郷土資料館　平成29年１月21日（土）～平成29年２月26日（日）
休館日は月曜日、毎月１日

○会期中、講演会を次のとおり行います。

遺跡展講演会　川崎市市民ミュージアム　映像ホール
第1回　12月18日（日）　国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長　海部陽介氏
第2回　１月７日(土)　東京大学大学院教授　佐藤宏之氏

巡回展講演会　大磯町郷土資料館　研修室
２月19日(日)　首都大学東京准教授　出穂雅実氏

○図録の出土品写真のキャプションは、品名・出土遺跡・所蔵を記し、県教育委員会所蔵については、所蔵を略しました。

○遺跡展・巡回展の企画・図録の作成は、川崎市市民ミュージアム（担当　新井悟）、川崎市教育委員会（担当　栗田一生）、大磯町郷土資料館（担当　國見徹）の協力を得て、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所〔神奈川県埋蔵文化財センター〕の髙屋敷飛鳥が行いました。

○川崎市企画展の企画・図録（28・29頁）の作成は、川崎市教育委員会生涯学習部文化財課の栗田一生が行いました。

○表紙写真：（石器）座間市栗原中丸遺跡出土尖頭器
（背景）横浜上空より神奈川と富士山を望む

プロローグ

―旧石器時代のヒトと社会―

私達現代人は現代社会の中で日々仕事をし、休日は旅行や買い物などを楽しみ、時には病気やストレスなどによって不安を感じて生活しています。今から約３万８千年前の後期旧石器時代の人々はどうでしょうか？彼らは氷期の過酷な環境の中で生きる狩猟・採集民であり、一か所に定住しない遊動民でもありました。彼らと私達は、住む世界も、考えていることも、全く違うように思うかもしれません。事実、19 世紀後半のモルガンなど初期の文化人類学者は、進化論の枠組みの中で旧石器時代を「野蛮」と位置付けました。果たして本当にそうでしょうか？

ホモ・サピエンスはヒト科の中で現在まで生存している唯一の種（現生人類）であり、ネアンデルタール人（旧人）やホモ・エレクトゥス（原人）などの他の種は、現在は絶滅し、化石として見つかるのみです。

ホモ・サピエンスの行動的特徴には、象徴（シンボル）の使用や抽象的思考、優れた計画能力、行動・経済・技術に関する発明能力が関わっているとされています。今では当たり前の情報ネットワークや貨幣などの交換体系の整備、時間の管理もそれらの能力によって実現できたものです。ホモ・サピエンスにとっては当たり前であるこれらの能力は、旧人以前の化石人類には備わっておらず、ネアンデルタール人の作った石器は、数万年間ほぼ変化がないことが知られています。

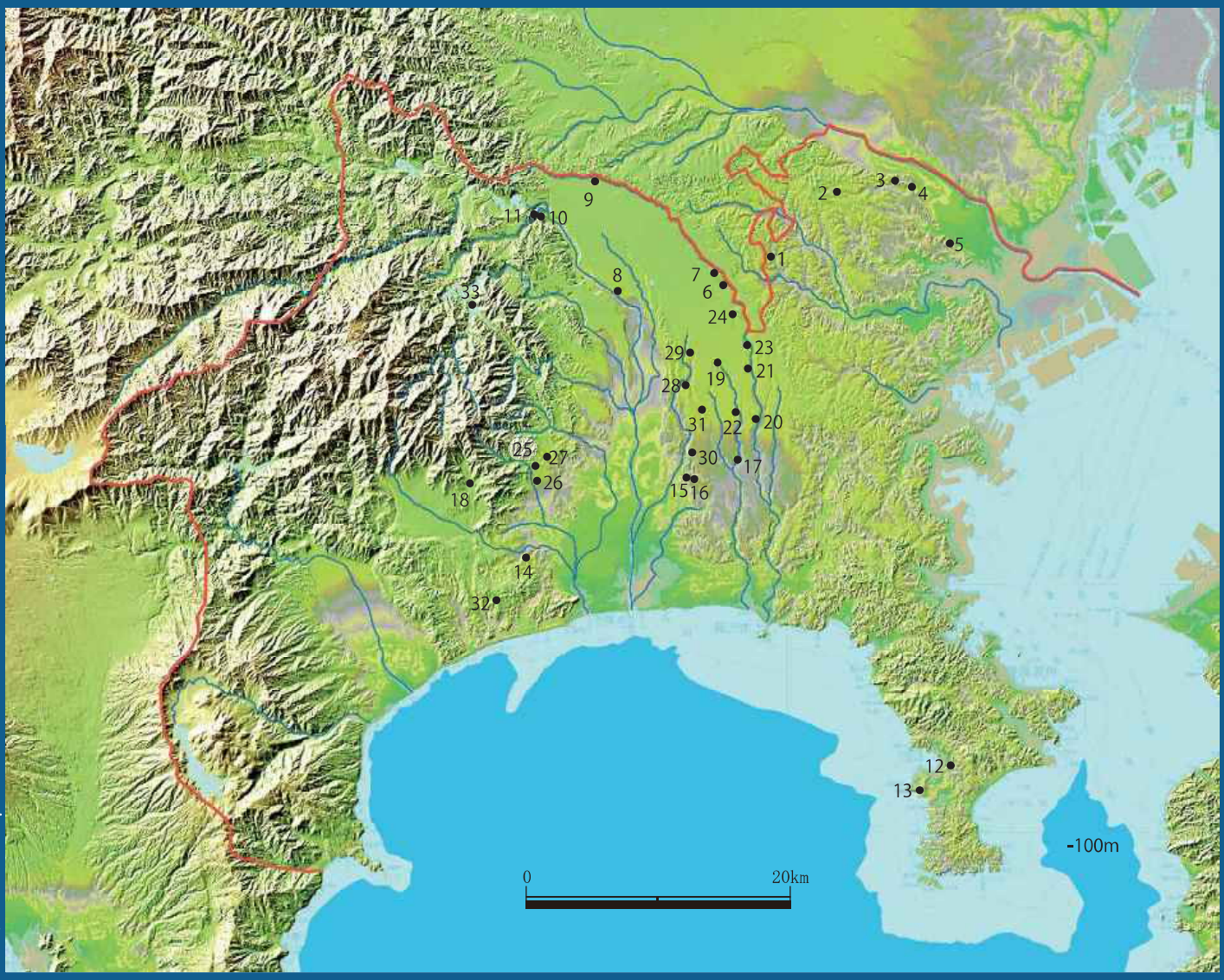
日本列島にやってきた後期旧石器時代の人々は私達と同一の種ホモ・サピエンスであり、遠い私達の祖先でもあります。彼らがどのようなことを考え、生活していたか、直接知ることはできませんが、その痕跡として遺跡に残された石器などの遺物や炉などの遺構を手がかりとして、推測することができます。

神奈川県内では、旧石器時代の遺跡は相模川東側の南北 40km、東西 10km ほどの相模野台地で多く見つかっています。ただし最近は、今まで資料が少なかった県西部の伊勢原台地や秦野盆地でも遺跡が発見されています。人骨は見つかっていませんが、遺跡で当時の人々が製作・使用したとみられる石器や礫（れき）が多数発見されています。古くは約３万８千年前にまで遡り、縄文時代の始まりとなる約１万５千年前まで連綿と出土し、時期によって内容が変化することが知られています。

後期旧石器時代初頭には、日本独自に局部磨製石斧（せきふ）と台形様石器が現れます。続いて前半期に石刃（せきじん）・縦長剥片剥離（はくへんはくり）技術によってナイフ形石器が多く作られるようになり、それは後半期にも続きます。また、前半期には礫群という調理に関する遺構も出現し、県内では三浦半島のみですが陥（おと）し穴状土坑が前半期最後の一時期に限って出現します。後半期になると地域差が大きくなり、台地ごと、丘陵ごとの小地域で違いが現れるようになります。後半期の半ばからは尖頭器（せんとうき）が作られるようになり、終末期に細石刃（さいせきじん）が現れ、気候の温暖化と土器の発明によって縄文時代へと移り替わります。

これらの目まぐるしい変化はいずれもホモ・サピエンスならではの特徴であり、後の時代になるにつれてその傾向がもっと顕著になるといえます。

旧石器時代の人々が残した石器などに触れることによって、「現代人らしさ」の萌芽（ほうが）を感じとってみてください。

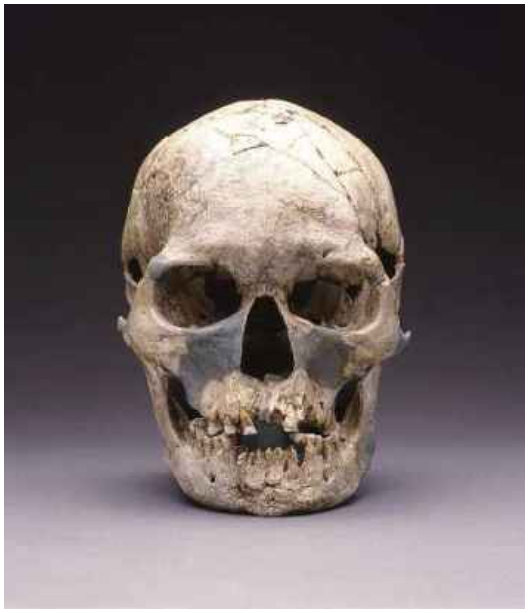


1 横浜市青葉区奈良地区遺跡群
2 川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡
3 川崎市高津区緑ヶ丘霊園内遺跡
4 川崎市高津区下作延神明神社東南遺跡
5 川崎市中原区・高津区井田中原遺跡
6 相模原市南区中村遺跡
7 相模原市南区下森鹿島遺跡
8 相模原市中央区田名塩田遺跡群
9 相模原市緑区橋本遺跡
10 相模原市緑区小保戸遺跡
11 相模原市緑区津久井城跡馬込地区
12 横須賀市船久保遺跡
13 横須賀市打木原遺跡
14 平塚市原口遺跡
15 藤沢市用田鳥居前遺跡
16 藤沢市用田南原遺跡
17 藤沢市代官山遺跡
18 秦野市蓑毛小林遺跡
19 大和市上草柳遺跡群
20 大和市上和田城山遺跡
21 大和市深見諏訪山遺跡
22 大和市福田丙二ノ区遺跡
23 大和市下鶴間長堀遺跡
大和市長堀北遺跡
大和市長堀南遺跡
24 大和市 No.210 遺跡
25 伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡
26 伊勢原市三ノ宮・下谷戸遺跡
27 伊勢原市西富岡・長竹遺跡
28 海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡
29 座間市栗原中丸遺跡
30 綾瀬市吉岡遺跡群
31 綾瀬市寺尾遺跡
32 中郡大磯町黒岩
33 愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群

県内の展示物出土地位置図

Ⅰ　解剖学的現代人

人類はアフリカで誕生し、各地域に広がっていったと考えられます。私達ホモ・サピエンスは 10 数万年前にアフリカで誕生し、約５～６万年前にアフリカを出て、ヒマラヤ山脈の北側を通るルートあるいは南側を通るルートで東アジアに移動し、約４万年前に日本列島に到達しました。世界各地で見つかっている人骨や考古資料、ミトコンドリア DNA の分析などによって、ホモ・サピエンスの拡散ルートやその時期、回数などが徐々に明らかになってきています。

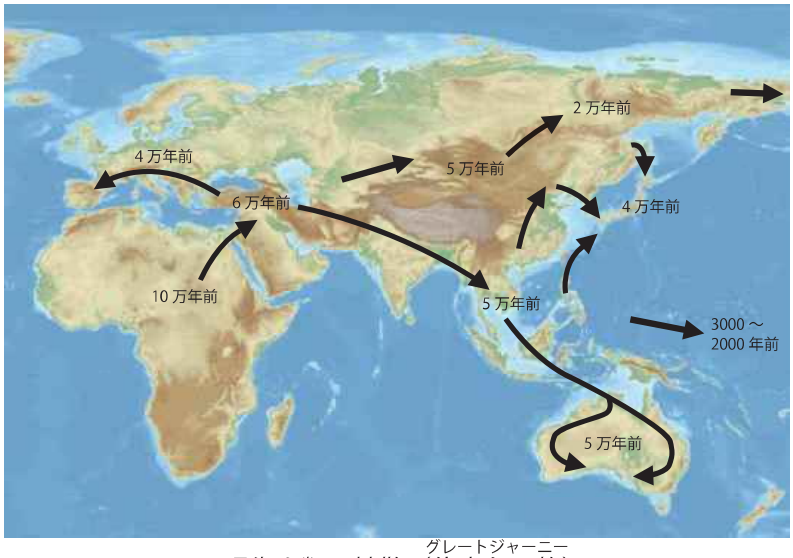


港川人 1 号男性頭部　東京大学総合研究博物館提供

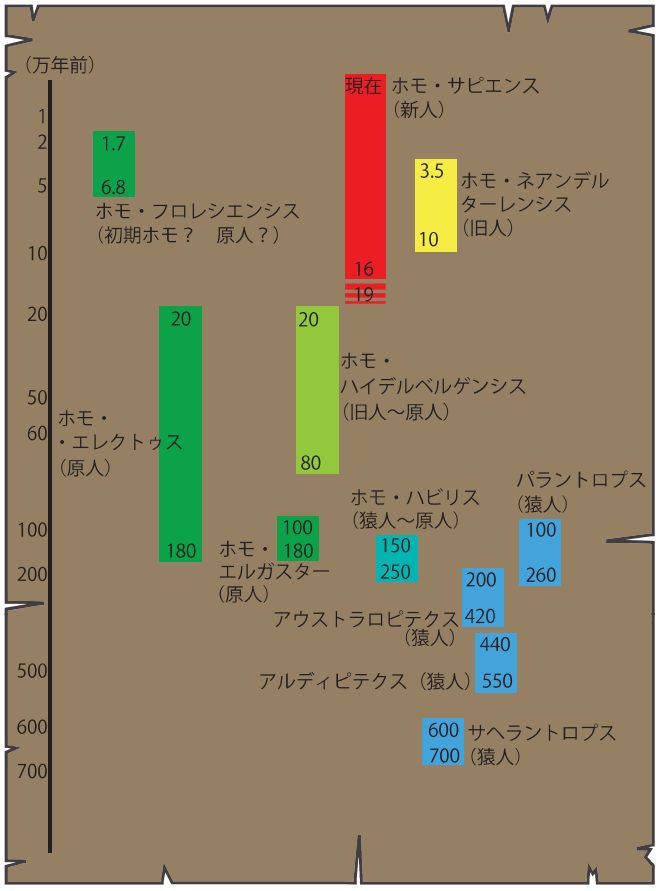
日本列島に入るルートとしては、サハリンから北海道に至るルート、朝鮮半島から北九州に至るルート、琉球列島から南九州に至るルートの３通りが主にあります。後２者で本州に到達するためには、航海技術が必要です。

解剖学的な現代人の特徴としては、大きな脳（男性平均 1426.6cc、女性平均 1272.0cc）と丸い形の頭蓋（とうがい）をもち、ネアンデルタール人にあった眼窩（がんか）上隆起（眉のあたりのでっぱり）がほとんどない、頤（おとがい）（下顎の先端の尖った部分）が発達しているなどがあります。

日本列島では、沖縄県の港川石灰岩地帯で約 2 万年前の年代をもつ成人男性の全身骨格（港川人）が発見されました。また、最古の人骨は沖縄県那覇市の山下町洞穴人で、約 3 万 6 千年前のものです。この他にも沖縄県では複数の人骨が確認されていますが、本州では唯一静岡県浜松市で見つかっています。これは日本の土壌が酸性のために人骨が残りづらいためです。ただ数は少ないながらも、日本列島で見つかっている人骨はいずれもホモ・サピエンスであることから、旧人以前の化石人類は、日本列島にはやってこなかったか、やってきたとしても一過性のものであったと考えられます。



現生人類の拡散（偉大なる旅（グレートジャーニー））



人類の進化と系統　（溝口 2011 より作成）

Ⅱ　かながわの最初の現代人

かながわでは、綾瀬市吉岡遺跡群Ｄ区から出土した石器が、約３万８～６千年前で最も古いものです。後期旧石器時代初頭に属し、形が揃わず、加工もあまりされていない石器が発見されています。

吉岡遺跡群よりやや新しくなりますが、同じく初頭に属する石器群として、相模原市緑区津久井城跡馬込地区、川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡、横須賀市船久保遺跡などがあります。刃先を磨いた石斧と台形の形をした石器が出土することが特徴で、これらの石器は日本独自のものです。

中段左から３・４番目：削器（さっき）、中段左から２番目・下段左：彫器（ちょうき）、それ以外：台形様石器
綾瀬市吉岡遺跡群Ｄ区

石斧（左２点：局部磨製石斧、右２点：打製石斧）
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

石斧製作を示す接合資料
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

局部磨製石斧の刃先
（左写真左下の資料）

上段左３点：ナイフ形石器、それ以外：台形様石器
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

台形様石器
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

台形様石器
横須賀市船久保遺跡

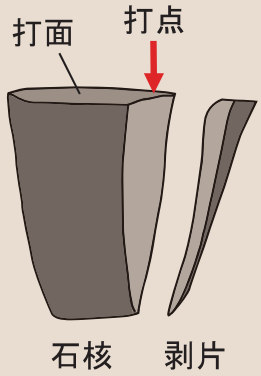
石斧（左 3 点：局部磨製石斧、右 1 点：打製石斧）
大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡　大和市教育委員会

上段：ナイフ形石器、下段左 2 点：削器、
下段右 2 点：彫器
大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡
大和市教育委員会

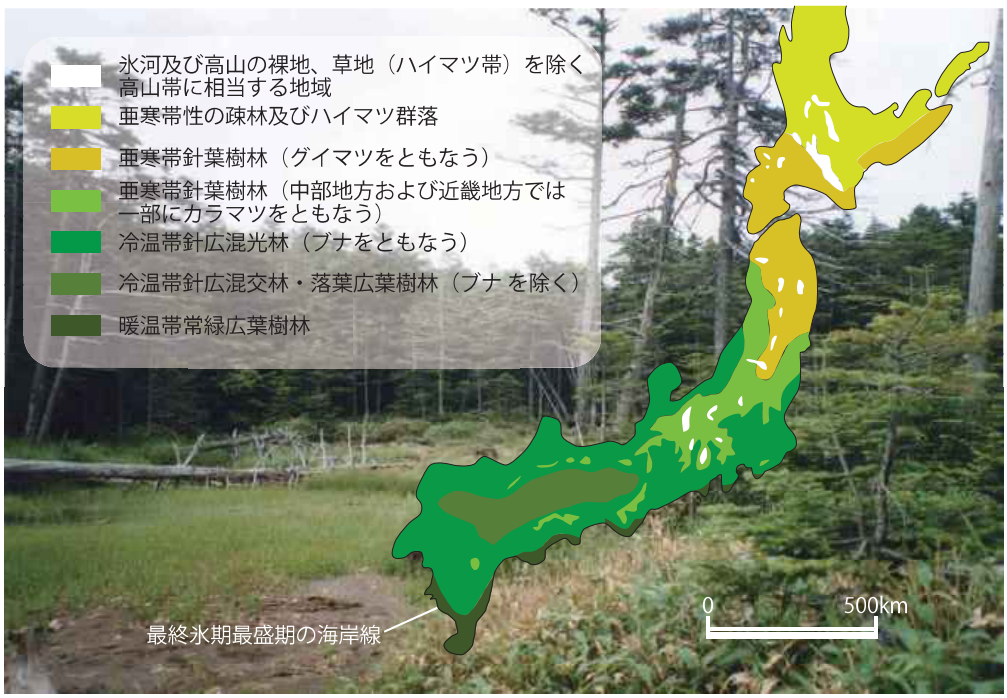
上段左上：ナイフ形石器、上段左下：台形様石器、
上段右 4 点：微細剥離痕ある剥片
下段左：削器、下段中央：微細剥離痕ある剥片、下段右：剥片
川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡　川崎市市民ミュージアム　（川崎市重要歴史記念物）

石器の基本用語

剥片（はくへん）…母岩から剥がされた石片
石核…剥片を剥がした際に残る石のかたまり
打面…剥片を剥がす際にハンマーで叩いた面
打点…剥片を剥がす際にハンマーで叩いた部分



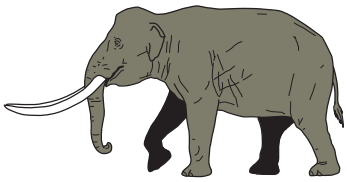
コラム１　古環境



最終氷期最盛期ごろの日本列島（植生図は那須 1985 より作成）
（写真は標高２千ｍの信州八ヶ岳 。浅間縄文ミュージアム提供）

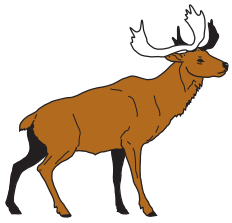
後期旧石器時代は氷期であったことが知られています。過去 70 万年間においては、寒冷な時代（氷期）と温暖な時代（間氷期）を約 10 万年単位で交互に繰り返していました。下の図はグリーンランド氷床の酸素の同位体比組成の変化によって過去の気候変化を表したものです。酸素同位体比が高いと温暖、低いと寒冷な気候であることを示しており、その変化によって時期（ステージ）を呼び分けています。後期旧石器時代前半期はやや寒冷な海洋酸素同位体比ステージ（MIS）3 に、後半期は寒冷な MIS 2 にほぼ該当します。ちなみに現在は縄文時代以降続く温暖な MIS 1 に該当します。MIS 3 は MIS 2 よりは温暖な時期ですが、短期的な寒暖の変化が大きい不安定な時期だったと考えられます。寒さが最も厳しくなった時期は最終氷期最盛期（LGM）と呼ばれ、後期旧石器時代後半期の一時期が該当します。また、縄文時代に入ってすぐ（MIS 1 の直前）に一時的に寒さが戻る時期があり、ヤンガードリアス期（YD）と呼ばれています。氷期の日本列島は今より平均気温が４～６℃低く、海面が約 100m 低下しました。

植物相をみると、関東地方は冷温帯の針葉樹と広葉樹が混ざりあう植生で、現在の信州八ヶ岳付近の植生でした。食用としては、オニグルミ、ハシバミ、チョウセンゴヨウなどのナッツ類、ヤマブドウ、サルナシ、イチイなどのベリー類、スモモなどの果実があったと推測されます。



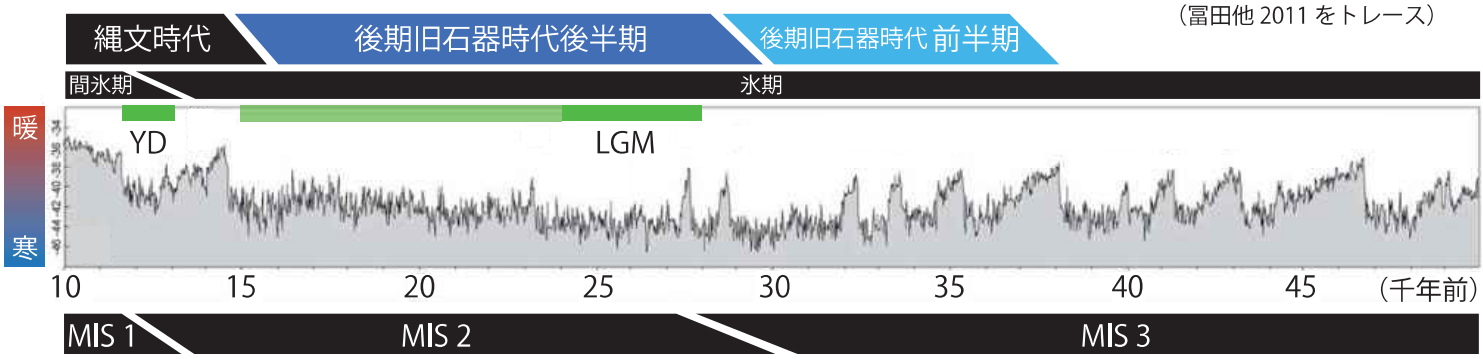
ナウマンゾウ

動物相では、ナウマンゾウ、ヤベオオツノジカといった今は絶滅してしまった大型哺乳類が生息していました。関東地方ではこれらの動物に加え、ニホンムカシジカ、ニホンジカ、カモシカ、ツキノワグマ、ヒグマ、キツネ、タヌキ、ニホンザル、ノウサギなどの中・小型哺乳類がいたようです。



ヤベオオツノジカ
（冨田他 2011 をトレース）

これらの気候や動植物相等の環境の変化は、後期旧石器時代の人々に多大な影響を与えたと考えられ、その一部が狩猟具や石材の獲得行動などの各種活動の変化に表れています。



グリーンランド氷床コアの海洋酸素同位体比変動
（Kudo, Y. and Kumon,F. 2012 より作成）

Ⅲ　現代人的行動

現生人類（新人）に特有な行動にはどういったものがあるのでしょうか？

欧米では、ネアンデルタール人（旧人）と新人を比較する中で、新人にしか見られない行動を抽出する研究が行われてきました。その一つの研究手法として、後期旧石器時代の遺跡＝新人が残した遺跡でしかみられない考古学的特徴をリスト化する手法があります。

アメリカの考古学者マクブレアティとブルックスは、現生人類には鍵となる以下の４つの能力があると主張しています。

①抽象的思考を行う能力
②優れた計画能力
③行動上・経済活動上・技術上の発明能力
④象徴（シンボル）を用いて知識伝達をする能力

そしてその能力によってなされた現代人的行動によって残される考古学的特徴には下表のようなものがあるとしています。

日本列島の後期旧石器時代の遺跡をみてみると、この表に当てはまるものを多数確認できます。まず、日本列島という未知の土地への移動自体が現代人的行動といえるでしょう。

かながわでは、以下のようなものが現代人的行動と考えられます。

・石刃・細石刃製作技術などの新しい石器製作技術（本展示 Ⅲ-ⅰ-1 ～ 3）
・礫群という新しい調理技術、それによる食糧の範囲の拡大（Ⅲ-ⅱ）
・石囲い炉などの より強い火の支配（Ⅲ-ⅱ）
・多様な石器の種類（コラム 2）
・キャッシュなどの計画的な資源利用（Ⅲ-ⅲ-1）
・海洋渡航による神津島産黒曜石の獲得（Ⅲ-ⅲ-2）
・信州産黒曜石などの遠隔地石材の獲得（Ⅲ-ⅲ-3）
・多様な石材利用（Ⅲ-ⅲ-3・Ⅳ-ⅱ）
・精巧な石器などの象徴的な遺物（Ⅲ-ⅳ）
・遺跡間接合などの集団同士の社会的つながり（Ⅲ-ⅴ）
・陥し穴猟などの新しい狩猟方法（Ⅳ-ⅰ）
など

遺跡証拠に現れる現代人的行動

・分布域の拡大
（ある集団が新しい文化を発展させ、それまで人類の分布していなかった新しい土地へ進出すること）
・道具の種類の多様化
・道具の形の規格化
・新しい石器技術（石刃技法など）
・新しい道具素材の本格利用（骨、角、象牙、貝殻など）
・アクセサリー
・絵、彫刻、音楽などの芸術
・居住空間が明確な構造をもつ
・遺跡数の増加（人口増加を反映）
・儀礼行為
・新しい食資源（水産資源など）
・長距離交易
・文化の地理的多様性
・文化の時代変化が比較的急速なこと

（海部 2005 より（McBrearty & Brooks 2000 の表を抜粋・改変したもの））

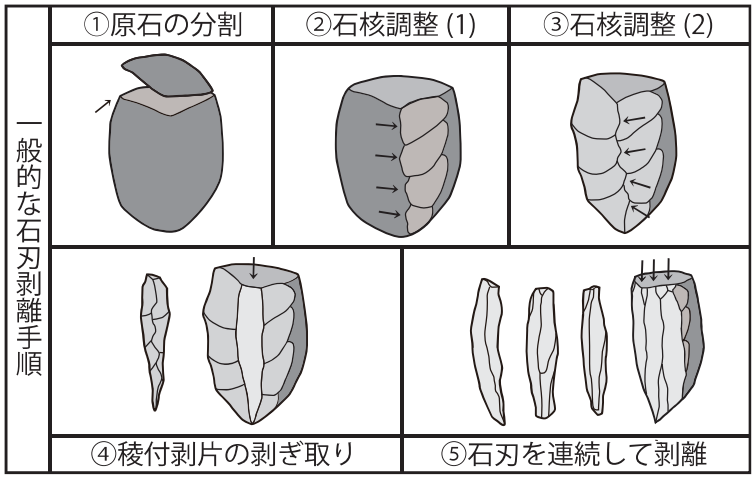
Ⅲ現代人的行動

ｉ　石器製作技術における発明・創意工夫

石は割れると元に戻すことができず、その割れ方にも法則性があります。旧石器時代の人々は石の性質や割れ方の癖などを熟知し、どのように割れば効率的に道具を作ることができるのか、技術の発明・改良を行っていました。前期旧石器時代（約 260 万年前～約 30 万年前）では 1 個の原石から 1 つしか道具を作れなかったのが、中期旧石器時代（約 30 万年前～約 4 万年前）に入って剥片を得ることによって作ることができる道具が数倍～数十倍になり、後期旧石器時代に入ってから発明された石刃、細石刃、尖頭器製作技術によって数十倍～数百倍の道具を作ることができるようになりました。

ｉ-1　石刃製作技術

石刃製作技術とは、石刃（両側縁が並行で縦長の剥片）を連続的に剥離する技術です。石刃の縁辺に細かな調整を加えてナイフ形石器や掻器（そうき）などの各種道具を作ります。



B4 層：石刃製作技術の萌芽

左から 2 番目：台形様石器、右：二次加工のある剥片、
それ以外：ナイフ形石器

石核

縦長剥片と石核の接合資料
相模原市緑区橋本遺跡　相模原市教育委員会

B3 層：石刃製作技術の確立

ナイフ形石器　綾瀬市寺尾遺跡　（神奈川県指定重要文化財）

複数の石刃の接合資料

石刃と石核の接合資料
綾瀬市寺尾遺跡　（神奈川県指定重要文化財）

B1 層下部：石刃製作技術の発達

ナイフ形石器　　座間市栗原中丸遺跡

ナイフ形石器と石刃の接合資料
座間市栗原中丸遺跡

石刃素材の掻器
大和市長堀北遺跡
大和市教育委員会

石刃と石刃核の接合資料　大和市長堀北遺跡　大和市教育委員会

ナイフ形石器　大和市長堀北遺跡　大和市教育委員会

ナイフ形石器
川崎市高津区下作延神明神社東南遺跡
川崎市市民ミュージアム

上段左：ナイフ形石器、上段左から 2・3 番目：削器、
上段右・下段左 3 点：微細剥離痕ある剥片、下段右：縦長剥片
川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡
川崎市市民ミュージアム
（川崎市重要歴史記念物）

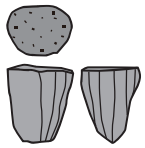
上段左 3 点：ナイフ形石器
上段左から 4 番目：彫器
下段左 2 点：ナイフ形石器
下段右 2 点：削器
横浜市青葉区奈良地区遺跡群
受地だいやま遺跡

上段：打面再生剥片
下段：石刃
横浜市青葉区
奈良地区遺跡群
受地だいやま遺跡

i -2　細石刃製作技術

細石刃製作技術とは、細石刃（長さ数 cm、幅 1 cm 以下の極小の石刃）を連続的に剥離する技術で、関東地方では後期旧石器時代の終末に現れます。小さな原石や素材から多くの小型の刃を得ることができるため、石材の無駄が少なく持ち運びも容易で、定住しない旧石器時代人にとって非常に合理的な技術です。細石刃を得る方法ごとに、細石刃を剥離して残された石核（細石刃核）に違いがでるのが特徴です。県内では古手の代官山型細石刃核、後続して現れる野岳（のだけ）・休場（やすみば）型細石刃核、船野（ふなの）型細石刃核に加えて、東北アジアにルーツがあるとされる削片（さくへん）系細石刃核などが確認されています。

代官山型：
打面調整を施さず、自然面や節理（せつりめん）面を打面とした円錐形・角柱形の細石刃核



＊節理面：石の中の比較的規則正しい割れ目

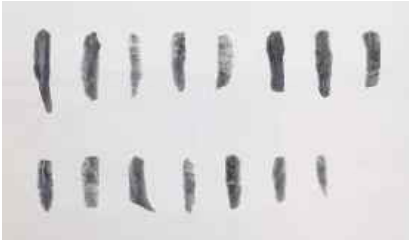
1 番左：細石刃核
右 4 点：細石刃
藤沢市代官山遺跡

細石刃核　藤沢市代官山遺跡

細石刃核　伊勢原市西富岡・長竹遺跡

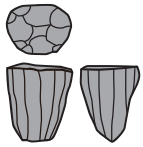
細石刃　伊勢原市西富岡・長竹遺跡

細石刃核（左：正面、右：背面）　伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡



細石刃　伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡

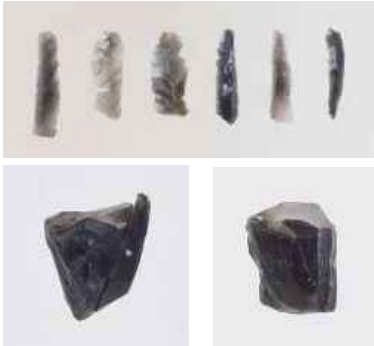
野岳・休場型：
打面調整を施した円錐形・角柱形の細石刃核



細石刃核原形
伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡

細石刃核　伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡

細石刃核　伊勢原市三ノ宮・下谷戸遺跡



細石刃

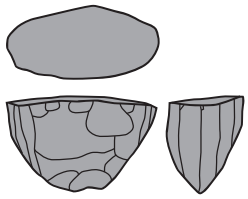
細石刃と細石刃核の接合資料
写真４点：伊勢原市三ノ宮・下谷戸遺跡

細石刃核と打面再生剥片の接合資料

細石刃核
大和市下鶴間長堀遺跡
大和市教育委員会

船野型：

厚手の剥片の周囲に調整を施した細石刃核（打面調整なし）。細石刃を剥がした後は船に似た形か円錐形になる。



細石刃
大和市下鶴間長堀遺跡
大和市教育委員会

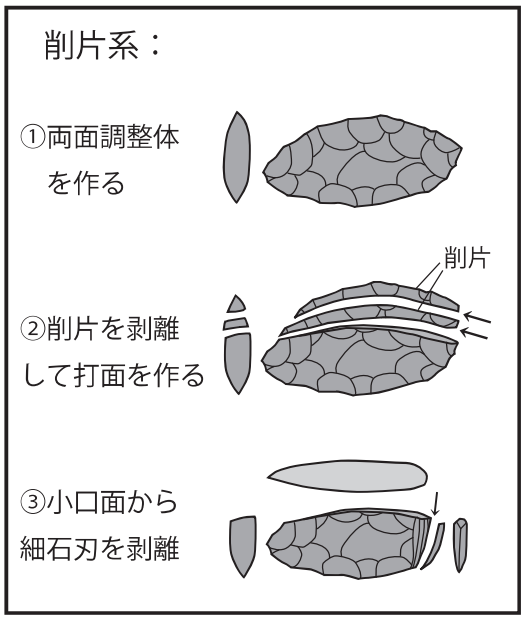
細石刃核原形　川崎市高津区緑ヶ丘霊園内遺跡
川崎市市民ミュージアム

細石刃核　大和市上和田城山遺跡
大和市教育委員会
（神奈川県指定重要文化財）

細石刃核と打面再生剥片の接合資料

細石刃製作を示す接合資料
大和市教育委員会（神奈川県指定重要文化財）

細石刃
大和市上和田城山遺跡
大和市教育委員会
（神奈川県指定重要文化財）

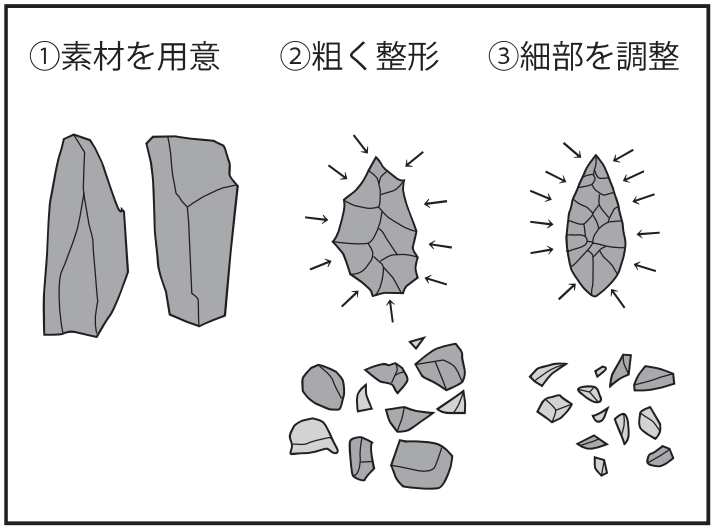


細石刃核と削片の接合資料
大和市長堀北遺跡
大和市教育委員会

細石刃核　大和市長堀北遺跡
大和市教育委員会

i -3　尖頭器製作技術

尖頭器製作技術は、素材となる大形剥片を剥離し、その素材に平坦剥離を施して器体を薄く整え、槍の穂先（尖頭器）を作る技術です。



尖頭器　秦野市蓑毛小林遺跡

秦野市蓑毛小林遺跡では、約 250 本の尖頭器を含む約 3 万点の石器製作を示す遺物が出土しました。

尖頭器　秦野市蓑毛小林遺跡

尖頭器
（↑上写真右端と同じ資料）

尖頭器の素材（大形剥片）　秦野市蓑毛小林遺跡

尖頭器未成品　秦野市蓑毛小林遺跡

L2 ～ B 1 層下部：尖頭器の登場

左 2 点：有樋（ゆうひ）尖頭器、
右 2 点：尖頭器
大和市 No.210 遺跡
大和市教育委員会

有樋尖頭器と削片の接合資料
大和市 No.210 遺跡
大和市教育委員会

有樋尖頭器
大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡
大和市教育委員会

B1 層上部
：尖頭器の数が増加
黒曜石を多用

尖頭器
大和市下鶴間長堀遺跡
大和市教育委員会

住居状遺構から出土した尖頭器
相模原市中央区田名塩田遺跡群田名向原遺跡
相模原市教育委員会　（神奈川県指定重要文化財）

相模原市教育委員会提供

田名向原遺跡では、円礫が直径約 10m の環状に分布し、その中に柱穴が 12 か所、炉が 2 か所ある遺構が見つかりました。上記の特徴から、住居ではないかと考えられています。旧石器時代は基本的に遊動生活をしていたため、住居が見つかることは非常にまれです。住居状遺構からは約 3000 点の石器も見つかり、遺構内で石器製作が盛んに行われていたことがわかりました。

L1H 層：尖頭器が盛行

尖頭器　藤沢市用田南原遺跡

尖頭器と尖頭器調整剥片の接合資料
藤沢市用田南原遺跡

尖頭器
調整剥片

尖頭器未成品

L1S 層

尖頭器　大和市長堀北遺跡　大和市教育委員会

尖頭器
川崎市中原区・高津区井田中原遺跡
川崎市市民ミュージアム

縄文時代草創期

尖頭器
中郡大磯町黒岩採集
大磯町郷土資料館

Ⅲ現代人的行動

ii　調理技術における発明・創意工夫

後期旧石器時代の半ばに本格的に登場する礫群は、食糧の範囲を大幅に広げたと考えられます。礫群は民族事例や実験結果より、石蒸し調理に使用された可能性が高いようです。調理方法は、火で熱した石を集め、その上に葉などを敷いた上に調理したい食料を載せ、大量の草で覆って数時間蒸すというものです。石蒸し調理によって、今まで「焼く」だけだった調理方法に、「蒸す」という方法が加わり、それまで食べられなかったイモ類などのデンプン質食糧や硬い食べ物にも十分に火を通すことができるようになりました。

綾瀬市吉岡遺跡群Ｃ区では、礫群の中に生後半年ほどのイノシシの乳歯が見つかりました。旧石器時代の人々は狩りで捕まえたイノシシを蒸して食べていたのかもしれません。

また、愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡では石で囲った炉跡が見つかりました。炉は主に「焼く」用途に使用されたと考えられます。石で囲うことによって火の管理が容易になり、「焼く」調理を行いやすくなったと考えられます。炉の中には多量の炭化物と焼土が存在することが確認され、当地で旧石器時代の人々が繰り返し火を焚いていたことがわかりました。

礫群　綾瀬市吉岡遺跡群Ｃ区

イノシシの乳歯

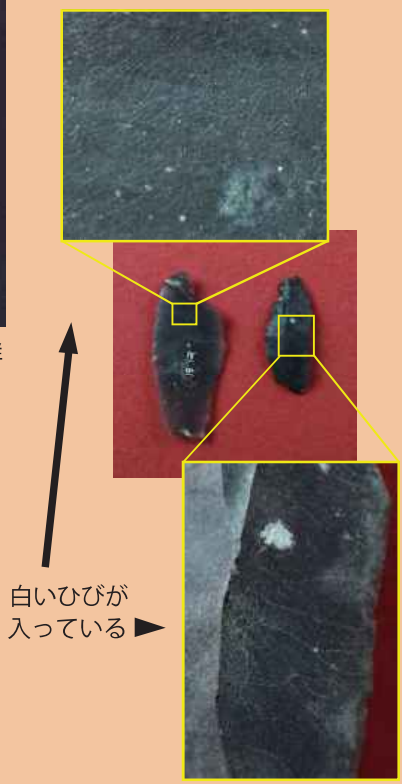
炉址　愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡

炉址周辺で見つかった尖頭器石器群

石器の中には、時折火を受けてひびが入ったり変色した石器が見つかることがあります。

灰色に変色した黒曜石製石器

赤色に変色した凝灰石製石器
秦野市蓑毛小林遺跡



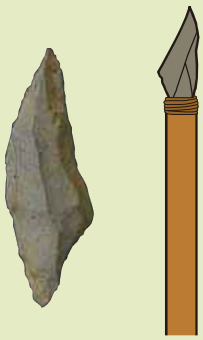
被熱した細石刃　大和市上草柳遺跡群
左：上草柳第１地点遺跡、右：上草柳第３地点中央遺跡　大和市教育委員会

コラム２　石器の種類と用途

研究者達は、どのような形態をしているか、どこに加工が加えられているかといった特徴によって石器を分類しています。石器がどのような用途に使用されたか明確につきとめる方法がなく、（特に旧石器時代には）必ずしも一つの石器が一つの用途に使用されたとは限らないためです。そのため、石器の器種 (種類) 名は必ずしも機能的特徴を表しませんが、それでも器種ごとに大よそ想定される用途はあります。特に掻器は使用痕分析によって、皮なめしに使用されたことがほぼ間違いないだろうと考えられています。

狩猟具

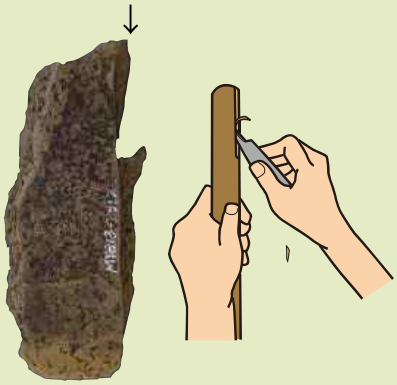
突く・刺す・切る



	台形様石器	ナイフ形石器	尖頭器（せんとうき）	細石刃（さいせきじん）
定義	台形やペン先の形に加工した石器	素材の鋭い縁辺の一部を残し、周囲に刃潰し加工した石器	石器の両側からの平坦調整によって尖頭部を作り出した石器	長さ数 cm、幅 1cm以下の極小の石刃。木や骨の溝に複数個はめ込んで使用した。
遺跡	相模原市緑区津久井城跡馬込地区	座間市栗原中丸遺跡	大和市長堀北遺跡	伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡

加工具

獣脂を掻き取る、皮をなめす　　削る・切る　　彫る・削る



	掻器（そうき）	削器（さっき）	彫器（ちょうき）
定義	末端に調整を加えた石器	側縁に調整を加えた石器	先端に彫刻刀状の刃を設けた石器
遺跡	愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群上原遺跡	大和市長堀南遺跡	愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群上原遺跡

伐採具

木の伐採、動物の解体

	石斧（せきふ）（局部磨製石斧）
定義	全体を打ち欠いて整形し、刃部を磨き出した石器
遺跡	相模原市緑区津久井城跡馬込地区

※「遺跡」は写真資料が出土した遺跡
※尖頭器と削器の写真資料は、大和市教育委員会所蔵

Ⅲ現代人的行動

ⅲ　計画性

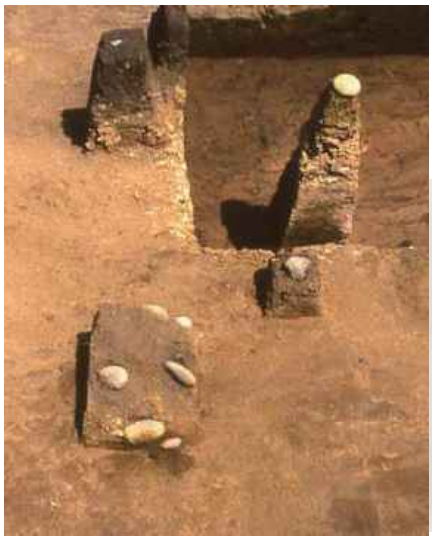
ⅲ-1　キャッシュ（備蓄）

手に入れたものをすぐに使うのではなく今後のためにとっておく、いざという時のために多めに用意しておくことを「キャッシュ」と呼び、計画的な行動の一つと考えられます。

相模原市中央区田名塩田遺跡群Ａ地区では黒曜石原石が、綾瀬市吉岡遺跡群Ｅ区ではまだ使用可能な磨石が、相模原市南区下森鹿島遺跡では準備が整えられた石核が一箇所にまとまって出土しました。いずれもまだ使用可能なものばかりで廃棄したとは考え難く、キャッシュと考えられます。

黒曜石原石
相模原市中央区田名塩田遺跡群Ａ地区
相模原市教育委員会
（相模原市指定有形文化財）

原産地分析によって黒曜石は信州（諏訪星ヶ塔）産であることが判明しました。

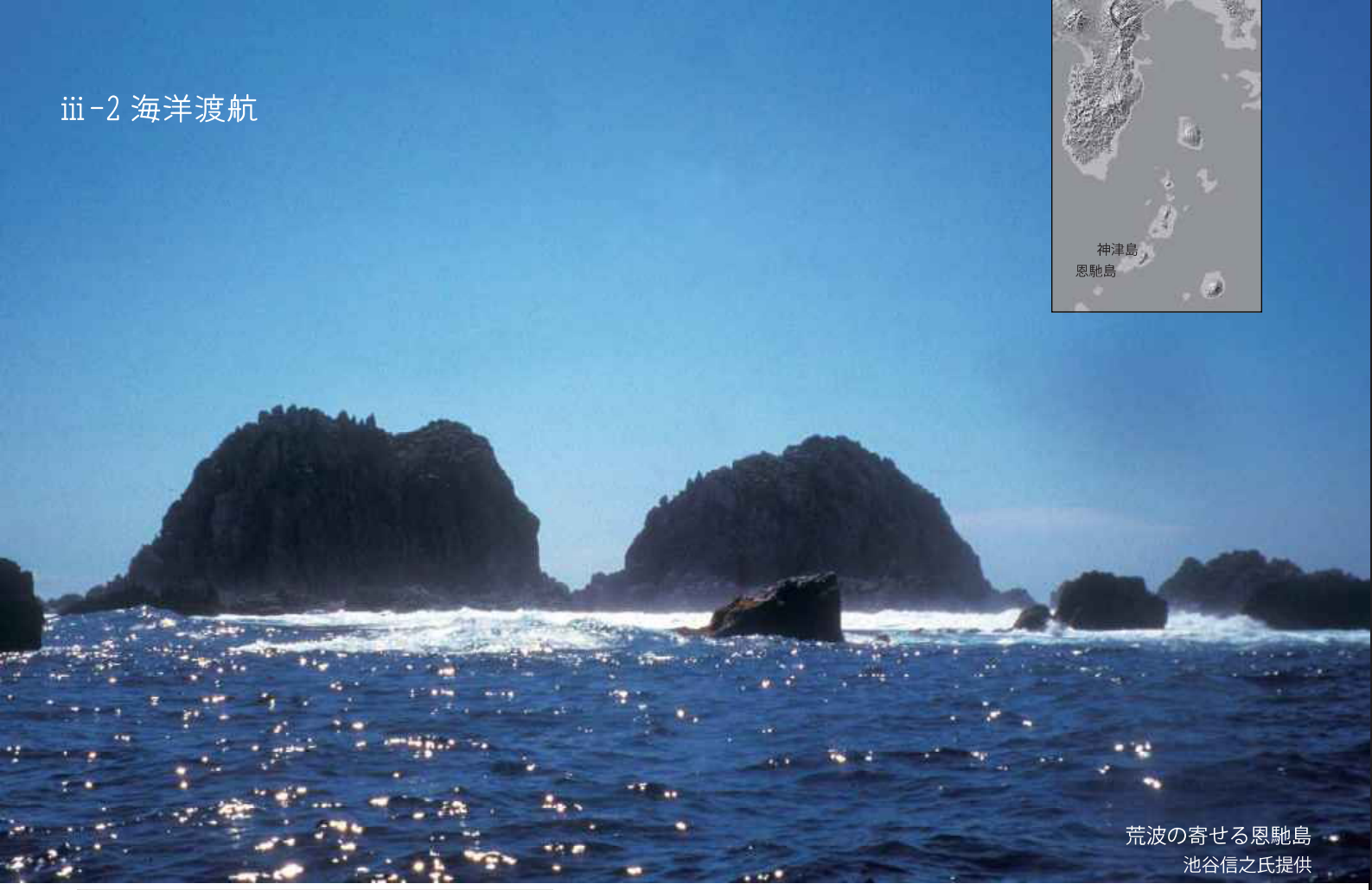


磨石状円礫　綾瀬市吉岡遺跡群Ｅ区

磨石状円礫は１点のみ１mほど離れて出土しましたが（左写真右上）、それ以外は１か所にまとまって出土しました（左写真左下）。

石核　相模原市南区下森鹿島遺跡　相模原市教育委員会
（相模原市指定有形文化財）

iii-2 海洋渡航



荒波の寄せる恩馳島
池谷信之氏提供

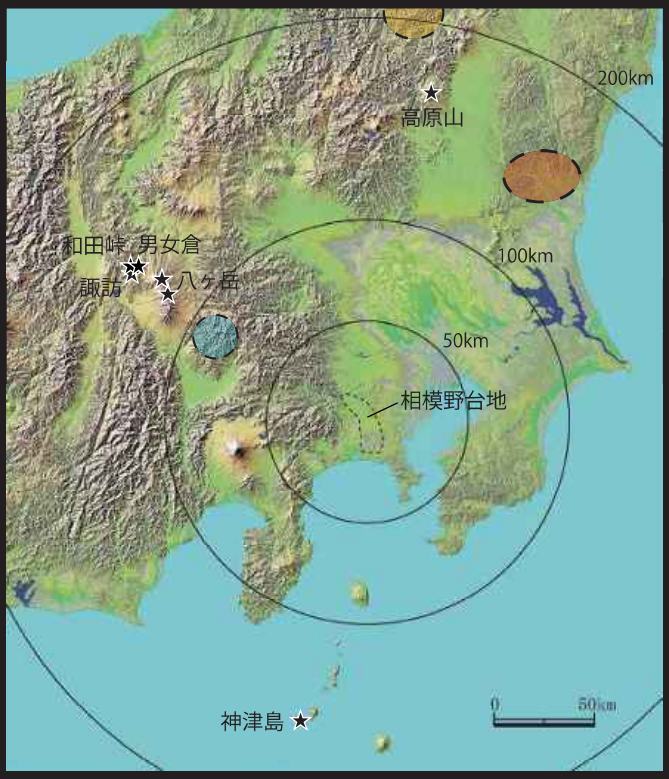
上段左：台形様石器、上段左から 2 番目：微細剥離痕ある剥片、上段左から 3 番目・中段右・下段左から 2 番目：石核、上段右・中段左 2 点・下段左：二次加工痕ある剥片、中段左から 3・4 番目・下段右 2 点：剥片
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

上段左 3 点：細石刃核、上段右から 2 番目（2 点）：打面再生剥片、上段右：作業面再生剥片の接合資料、下 2 段：細石刃
藤沢市用田鳥居前遺跡

関東地方各地の遺跡で、伊豆諸島の、恩馳島（おんばせじま）を含むいわゆる神津島で産出する黒曜石が見つかっています。神津島は最終氷期にも本州と陸続きになっていないことから、旧石器時代の人々は航海によって黒曜石を入手していたと考えられます。神津島産黒曜石は、後期旧石器時代の中でも特に初頭段階と終末期の細石刃石器群の段階に多く流入します。船などの直接的な証拠はありませんが、後期旧石器時代の人々が日本列島に来て比較的早い段階に航海を行っていたことがわかります。

（上）左：細石刃核と打面再生剥片の接合資料、左から 2 番目：細石刃核、左から 3 番目：細石刃核調整剥片、右 3 点：細石刃核原形、（下）細石刃
海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡　海老名市教育委員会

iii-3　遠隔地石材の調達



遠隔地で産出する石材としては、信州産・高原山産・神津島産黒曜石、東北地方産頁岩、メノウ、玉髄、水晶などがあります。これらの産地はいずれも相模野台地から 50km 以上の距離があります。

当時の人々にとって石材は食糧を得るための道具として欠くことのできないものです。石材は単体ではなく、一定量遺跡に残されていることから、交換によって入手したとは考えがたく、基本的には直接各石材産地に赴き、採取していたと考えられます。このような遠隔地へ赴き、再び戻ってくるために、旧石器時代人は綿密な計画をたてて行動していたと予測されます。

＊黒曜石は蛍光 X 線分析によって、非破壊で原産地を推定できます。黒曜石に含まれる元素の含有量は産地ごとに特徴があり、各産地の元素含有量と分析資料を対比することで産地を推定しています。

信州産黒曜石

上段・中段左 4 点・下段左 1 点：ナイフ形石器、
中段右・下段右 2 点：石核、下段左から 2 番目：剥片
座間市栗原中丸遺跡

左：ナイフ形石器、左から 2 番目・右：角錐状石器、
右から 2 番目：彫器　　綾瀬市吉岡遺跡群 D 区

左 4 点：ナイフ形石器、右から 3 番目：楔形石器、
右から 2 番目：剥片、右：石核
大和市福田丙二ノ区遺跡　大和市教育委員会

高原山産黒曜石

左 2 点：ナイフ形石器、右：石核
海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡
海老名市教育委員会

メノウ・玉髄（ぎょくずい）

上段 2 点：ナイフ形石器、上段右 3 点・中段左 2 点：彫器、中段中央：彫器削片、中段右：二次加工痕ある剥片、中段右から 2 番目・下段左 1 点・右 2 点：剥片、下段左から 2 番目：掻器
座間市栗原中丸遺跡

東北地方産頁岩（けつがん）

左：掻器、右：剥片
横須賀市船久保遺跡

水晶

上段左：台形様石器、上段右 2 点：剥片、
下段：原石
相模原市緑区津久井城跡馬込地区

尖頭器
座間市栗原中丸遺跡

Ⅲ 現代人的行動

ⅳ　象徴性

極まれに実用品とは考えがたい石器が発見されることがあります。座間市栗原中丸遺跡の尖頭器は、長さが 16.5cm と大きく、左右対称で器体が非常に薄く整った形に仕上げられています。東北地方産頁岩とみられる石材で作られており、遺跡内で他の石器群から離れて単独で出土しました。当地に製品として持ち込まれ、何らかのシンボル的な役割を果たしたのかもしれません。

また、県内では確認されていませんが、装飾品も後期旧石器時代後半期以降にみられるようになります。北海道湯の里４遺跡では、墓とみられる土坑からビーズやペンダントが発見され、静岡県富士石遺跡では、線刻のある石製品が発見されました。海外では壁画やヴィーナス像といった芸術作品も発見されており、当時の旧石器時代の人々の精神性を垣間見ることができます。

石製装飾品　　静岡県富士石遺跡　静岡県埋蔵文化財センター

ペンダント・ビーズ　　北海道湯の里４遺跡
＊左端は複製　　知内町郷土資料館（国指定重要文化財）

局部磨製石斧　　綾瀬市吉岡遺跡群 A 区

左 5 点：尖頭器、右：局部磨製石斧　　綾瀬市寺尾遺跡

後期旧石器時代終末期～縄文時代草創期にかけて、神子柴（みこしば）・長者久保（ちょうじゃくぼ）石器群という、非常にデザイン性に優れた石器が主に東日本でみられるようになります。県内では綾瀬市吉岡遺跡群 A 区や同市寺尾遺跡で確認されています。石器群の名称の元となった長野県神子柴遺跡では、発見された大形の石斧と尖頭器（黒曜石製を除く）に、使用された痕跡がないことがわかりました。

尖頭器・局部磨製石斧　　長野県神子柴遺跡　（国指定重要文化財）
上伊那考古学会　Photo：T.Ogawa

打製石斧
綾瀬市吉岡遺跡群 A 区

Ⅲ 現代人的行動

Ⅴ　社会性

当時の社会や文化を示すものとしては、どのようなものが上げられるでしょうか。

国府型（こう）ナイフ形石器と呼ばれる西日本で特徴的に見られる石器が、関東地方で発見されることがあります。これらの石器は関東では単独で出土することが多いことから、人の移動ではなく、交換によって遺跡にもたらされたのではないかと考えられています。当時の西日本と東日本の関係を考える上で興味深い事例です。

また、国府型ナイフ形石器と同様に文化的影響を示す事例として、男女倉（おめぐら）型有樋尖頭器があります。有樋尖頭器とは、尖頭器の先端に樋状の剥離が加えられているものを呼び、後期旧石器時代後半期の一時期に特徴的に見られます（Ⅰ-3 も参照）。県内では特に信州産黒曜石製の左右対称の尖頭器が単独で発見されています。この尖頭器は信州の男女倉遺跡群で集中的に製作されていることから、信州産黒曜石を調達する際に当地にもたらされたのではないかと推測されます。

▲
刺身のつまを切るように横長の剥片（翼状剥片）を剥離し、その剥片の片側に刃潰し調整を加えて製作している。

国府型ナイフ形石器　大阪府翠鳥園遺跡　羽曳野市教育委員会

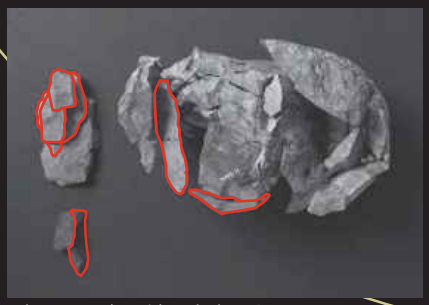
国府型ナイフ形石器　海老名市柏ケ谷長ヲサ遺跡　海老名市教育委員会

男女倉（おめぐら）型有樋尖頭器
相模原市南区中村遺跡
相模原市教育委員会

男女倉型有樋尖頭器
大和市深見諏訪山遺跡
大和市教育委員会

遺跡間接合　藤沢市用田鳥居前遺跡・綾瀬市吉岡遺跡群 B 区　（神奈川県指定重要文化財）

綾瀬市吉岡遺跡群 B 区と藤沢市用田鳥居前遺跡で出土した石器同士が接合する事例が確認されています。両遺跡はともに高座丘陵西端の目久尻川東岸に位置し、直線距離で約 2km の距離にあります。写真右側の個体は大半が吉岡遺跡群で割られていることから、吉岡遺跡群で製作したものを、用田鳥居前遺跡に持ち運んで使用していたことがわかりました。



赤：用田鳥居前で出土した石器
それ以外：吉岡で出土した石器

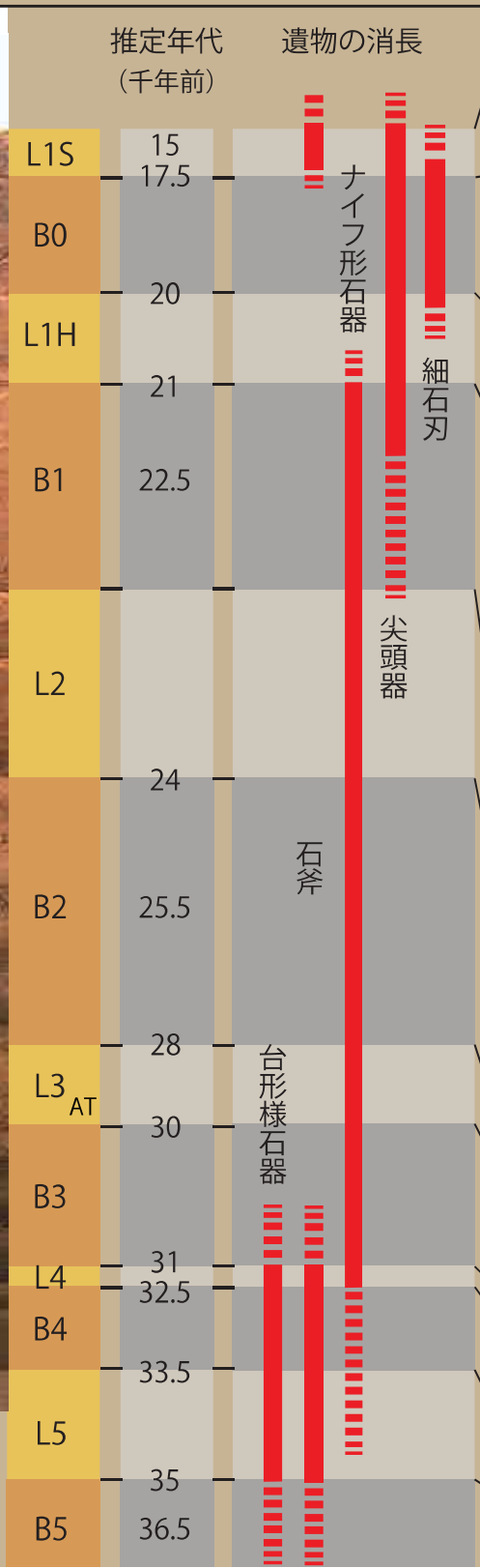
接合点数	吉岡	用田	計
左上	1	5	6
左下	1	1	2
右	102	4	106

コラム３　関東ローム層

関東地方では旧石器時代の石器は関東ローム層（赤土）最上層の立川ローム層から発見されます。ローム層は火山灰の堆積層で、主な供給源である箱根火山や富士山に近いことから、県内では立川ローム層の厚い堆積がみられます（約 8m。＊東京都周辺の武蔵野台地では約３m、千葉県の下総台地では約 1.5m）。風成層で、基本的に水平に堆積することから、下層ほど古く、上層ほど新しくなります。明るい部分と暗色になる部分が互層になっており、それぞれ上から順に L１～L５層、B０～B５層と名づけられています（L はローム（Loam）、B は黒色帯（Black band）の略）。堆積が厚いために、他地域と比べて時期差を把握しやすいという利点があり、各層から多数石器が発見されています。L3 層下部には姶良（あいら）Tn 火山灰（AT）という、南九州の姶良カルデラで約２万９千年前に噴火した際の火山灰が確認されており、広域で年代を対比する際の指標になっています。

立川ローム層

藤沢市用田南原遺跡



展示資料

中郡大磯町黒岩（地表面採集）
綾瀬市吉岡遺跡群 A 区縄文時代草創期
綾瀬市寺尾遺跡第Ⅰ文化層
川崎市中原区・高津区井田中原遺跡 B 地点
大和市長堀北遺跡第Ⅱ文化層
川崎市高津区緑ヶ丘霊園内遺跡第 2 地点（弥生時代遺構覆土）
大和市上和田城山遺跡第Ⅰ文化層
大和市下鶴間長堀遺跡第Ⅰ文化層

藤沢市用田鳥居前遺跡第Ⅰ文化層
座間市栗原中丸遺跡第Ⅲ文化層
大和市上草柳遺跡群上草柳第 3 地点中央遺跡第Ⅰ文化層
大和市上草柳遺跡群上草柳第 1 地点遺跡第Ⅰ文化層
伊勢原市三ノ宮・下谷戸遺跡第Ⅲ文化層
伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡第ⅩⅡ層
藤沢市代官山遺跡第Ⅲ文化層

伊勢原市西富岡・長竹遺跡 L1H 層上部
愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡第Ⅲ文化層
海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡第Ⅳ文化層
藤沢市用田南原遺跡第Ⅱ文化層
秦野市蓑毛小林遺跡 L1H 層

相模原市中央区田名塩田遺跡群田名向原遺跡Ⅷ層
相模原市中央区田名塩田遺跡群 A 地区Ⅸ層上部
川崎市高津区下作延神明神社東南遺跡（地表面採集）
藤沢市用田鳥居前遺跡第Ⅳ文化層
綾瀬市吉岡遺跡群 B 区遺物群Ⅳ
相模原市緑区小保戸遺跡第 3 文化層
横浜市青葉区奈良地区遺跡群受地だいやま遺跡
川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡第 2 地点第Ⅰ文化層
大和市福田丙二ノ区遺跡第Ⅱ文化層
愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群上原遺跡第Ⅴ文化層
座間市栗原中丸遺跡第Ⅴ文化層
相模原市南区下森鹿島遺跡第Ⅲ文化層
大和市深見諏訪山遺跡第Ⅳ文化層
大和市下鶴間長堀遺跡第Ⅱ文化層
大和市長堀北遺跡第Ⅵ文化層
相模原市南区中村遺跡第Ⅴ文化層
大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡第Ⅴ文化層

大和市長堀南遺跡第Ⅳ文化層
大和市 No.210 遺跡第Ⅱ文化層
大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡第Ⅵ文化層

秦野市蓑毛小林遺跡 B2U 層
平塚市原口遺跡第Ⅱ文化層
横須賀市船久保遺跡第Ⅱ文化層
綾瀬市吉岡遺跡群 C・D・E 区 B2 層
海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡第Ⅸ文化層

綾瀬市寺尾遺跡第Ⅵ文化層
横須賀市船久保遺跡第Ⅳ文化層
横須賀市打木原遺跡

相模原市緑区橋本遺跡第ⅩⅡ～ⅩⅤ層

綾瀬市吉岡遺跡群 A 区 B4 層上部
横須賀市船久保遺跡ⅩⅥ・ⅩⅦ層
相模原市緑区津久井城跡馬込地区第 6 文化層
川崎市宮前区鷲ヶ峰遺跡第 2 地点第Ⅱ文化層

大和市上草柳遺跡群大和配水池内遺跡第ⅩⅣ文化層

綾瀬市吉岡遺跡群 D 区 B5 層

Ⅳ　かながわの地域性

ⅰ　陥し穴猟

約２万９千年前の姶良 Tn 火山灰降灰前に、三浦半島、静岡県や南九州など、太平洋側に面した一部の地域で土坑が発見されることがあります。土坑は基本的に平面が円形（平均直径 1.4m）、断面が逆台形（平均深度 1.4m）のものが大半で、複数基列をなして発見されます。土坑は内部で石器がほとんど出土せず、斜面上や谷頭部分の等高線に沿って列をなして発見される傾向があることから、陥し穴ではないかと考えられています。狩猟対象獣は、土坑の規模や形状から、イノシシかシカと予想されています。狩りの形態としては、獲物を土坑まで追い込んで仕留める追い込み猟と、獲物が土坑にかかるのを待つ待ち伏せ猟（罠猟）が考えられています。

陥し穴状土坑（推定）検出状況
横須賀市船久保遺跡
玉川文化財研究所提供

陥し穴状土坑　横須賀市船久保遺跡　玉川文化財研究所提供

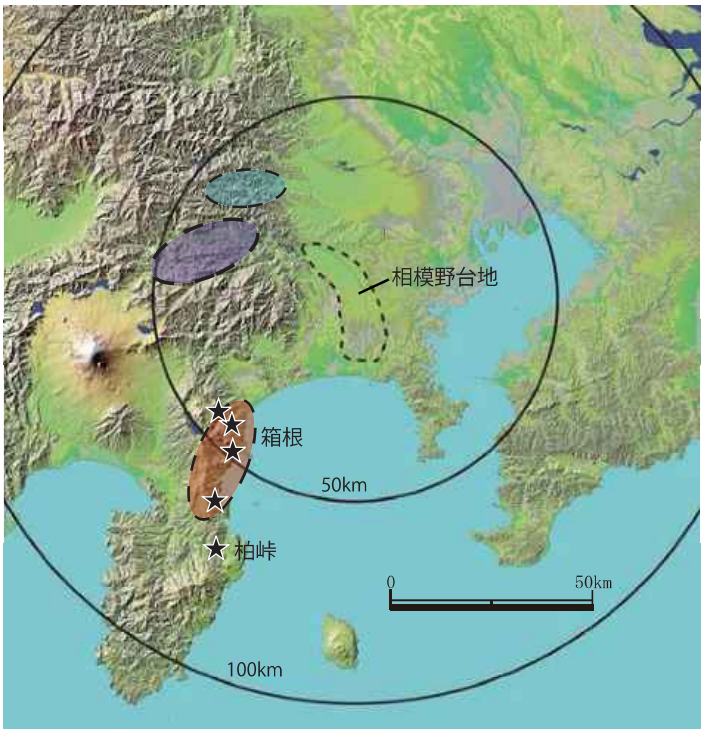
陥し穴状土坑検出状況
横須賀市打木原遺跡
横須賀市教育委員会提供

県内では横須賀市打木原遺跡が著名でしたが、最近同市船久保遺跡でも発見されました。調査はまだ２基だけですが、平面確認でさらに複数基存在する可能性が高いです。通常の陥し穴状土坑は平面が円形ですが、船久保遺跡の一部の土坑は、平面が長方形になる特徴があるようです。

陥し穴状土坑
横須賀市打木原遺跡
横須賀市教育委員会提供

Ⅳ　かながわの地域性

ⅱ　近傍石材の利用



● チャート　● 細粒凝灰岩　● 箱根産ガラス質黒色安山岩
★ 黒曜石

県内で発見される遺跡では、近傍でとれる石材（近傍石材）が多数使用されています。細粒凝灰岩、箱根産ガラス質黒色安山岩、箱根・伊豆柏峠産黒曜石、チャートが代表的なものとして上げられます。ただ、近くで採れるとはいえ、石器石材に用いられる良質な石はどこででも入手できるわけではありません。例えば、細粒凝灰岩は相模川上流部（桂川）、チャートは多摩川上流部に岩体が分布することがわかっています。中・下流部でも転礫として拾えますが、大型のものは源流部に行かないと入手することができません。吉岡遺跡群A区などでは、接合により大型の礫に復元されることがわかっており、より岩体に近い場所で原石を入手したと推測されます。

細粒凝灰岩

上段：掻器、下段左２点：削器、下段右３点：彫器
愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群上原遺跡　＊○は別の石材

石刃製作を示す接合資料
愛甲郡清川村宮ヶ瀬遺跡群上原遺跡

チャート

接合資料　相模原市緑区小保戸遺跡

上段：ナイフ形石器、下段左２点・左から４番目：彫器、
下段左から３番目・右２点：削器　相模原市緑区小保戸遺跡

箱根産ガラス質黒色安山岩

接合資料　綾瀬市吉岡遺跡群Ａ区

伊豆柏峠産・箱根産黒曜石

左４点：ナイフ形石器、右４点：角錐状石器
平塚市原口遺跡

引用・主要参考文献

稲田孝司 2001『遊動する旧石器人』岩波書店
岩宿博物館（編）2011『岩宿博物館．常設展示解説図録　岩宿時代』
海部陽介 2005『人類がたどってきた道』ＮＨＫブックス
工藤雄一郎 2012『旧石器・縄文時代の環境文化史』新泉社
財団法人かながわ考古学財団（編）2010『掘り進められた神奈川の遺跡』有隣堂
鈴木忠司 1988「素描・日本先土器時代の食糧と生業」『朱雀』1
堤隆 2011『列島の考古学　旧石器時代』河出書房新社
堤隆 2013『狩猟採集民のコスモロジー・神子柴遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」089、新泉社
中村雄紀 2014「関東地方における旧石器時代の年代と編年」『旧石器研究』10
那須孝悌 1985「先土器時代の概要」『岩波講座日本考古学２　人間と環境』岩波書店
溝口優司 2011『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』ＳＢ新書
冨田幸光・伊藤丙雄・岡本泰子 2011『新版　絶滅哺乳類図鑑』丸善株式会社
Kaifu, Y. , Izuho, M. , Goebel, T. , Sato, H. , and Ono, A. (eds.) 2015 *Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Paleolithic Asia.* Texas A&M University Press, College Station.
Kudo,Y. and Kumon,F. 2012 Paleolithic cultures of MIS 3 to MIS 1 in relation to climate changes in the central Japanese islands. *Quaternaly Internatonal* 248.
McBrearty,S. and Brooks,A.S. 2000 The revolution that wasn’t: A new interpretation of the origin of modern human behavior. *Journal of Human Evolution* 39.

＊世界地図は NOAA National Geophysical Data Center の ETOPO1 データを使用した。
＊日本地図は全てカシミール３Ｄで作成した。

協力機関・協力者（順不同）

大和市教育委員会、相模原市教育委員会、相模原市立博物館、史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館、海老名市教育委員会、横須賀市教育委員会、公益財団法人かながわ考古学財団、玉川文化財研究所、国立科学博物館、浅間縄文ミュージアム、上伊那考古学会、知内町郷土資料館、静岡県埋蔵文化財センター、羽曳野市教育委員会、東京大学総合研究博物館、池谷信之氏

川崎市企画展

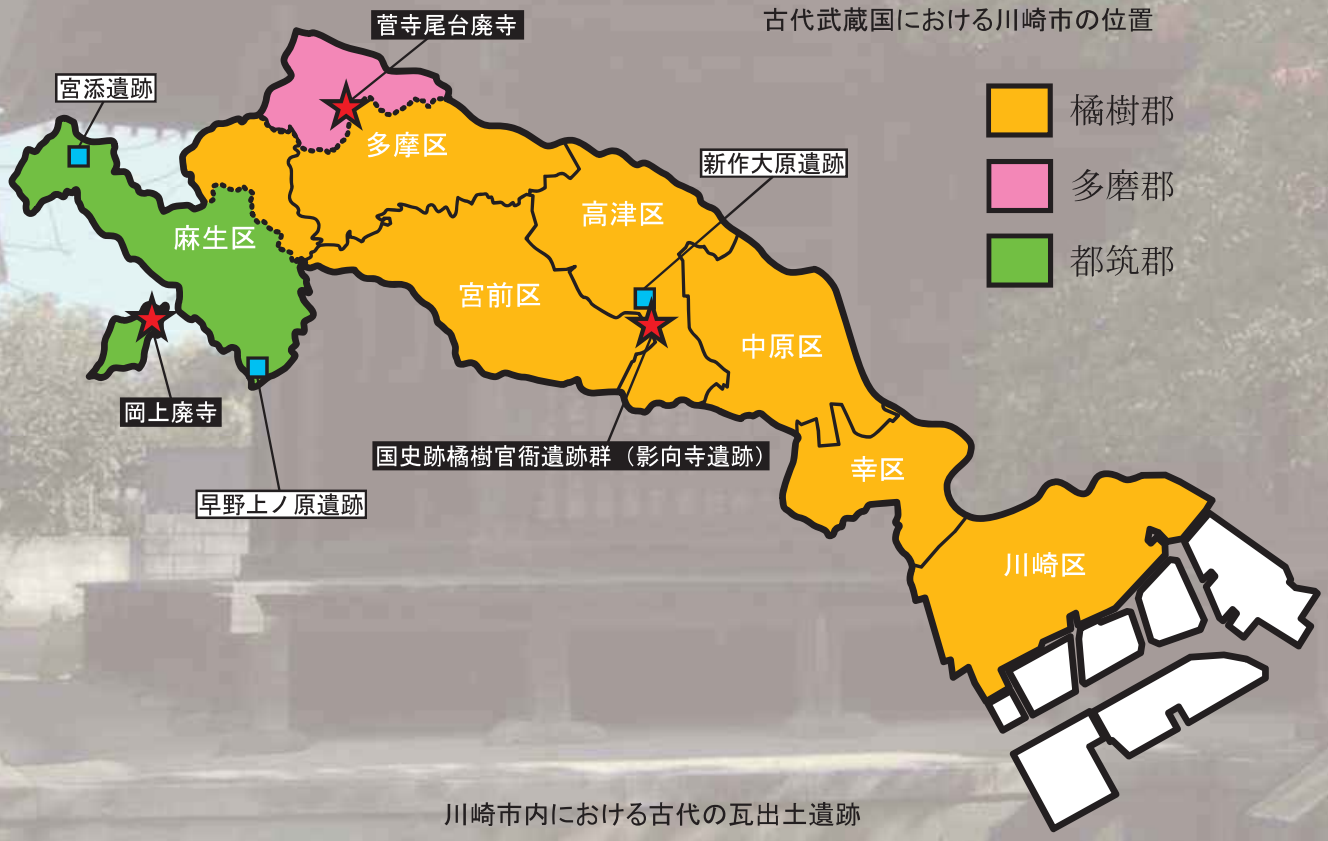
古代の瓦は語る

～遥かなる古代川崎に思いを馳せてみよう！！～

今から１，３５０年程前、橘樹評（後の橘樹郡）と呼ばれていたであろう、川崎市のほぼ中央に位置する宮前区野川の地に、川崎市域で最初の古代寺院が建立されました。当時都の置かれた飛鳥の地から遠く離れた東国の地に、突如都の薫り漂う仏教文化が花開き、橘樹の地に暮らす人々にとって、まさに驚天動地の出来事だったでしょう。

今回の企画展では、この最初の古代寺院跡である国史跡橘樹官衙遺跡群（影向寺遺跡）出土の瓦を中心に、その後市域で建立された古代寺院である菅寺尾台廃寺・岡上廃寺出土の瓦や遺物、また市内の古代の遺跡から出土した古代の瓦も合わせて展示しています。おそらく当時の人々も感じたであろう、古代寺院の荘厳さや、甍を飾った瓦の美しさ等を感じ、古代の川崎に思いを馳せてもらえればと思います。

古代武蔵国における川崎市の位置



川崎市内における古代の瓦出土遺跡

●●●川崎市内の遺跡から発見された古代の瓦●●●

国史跡橘樹官衙遺跡群（影向寺遺跡）

川崎市宮前区野川に所在する７世紀後葉に造営された古代寺院跡です。遺跡からは多くの瓦が出土しており、建物の軒を飾った軒丸瓦（のきまるがわら）・軒平瓦（のきひらがわら）のほかに、丸瓦・平瓦・熨斗瓦（のしがわら）など様々な種類の瓦が発見されています。瓦の特徴や出土した遺構の年代などから、軒丸瓦は創建期（１期：７世紀後葉～８世紀前葉）と整備期（３期：８世紀中葉～後葉）に大きく分類できることが明らかになっています。また、建物の柱穴跡から、「无射志国荏原評（むざしこくえばらこおり）」と刻まれた平瓦が出土しており、隣接する評（郡）との関係も推測できる、非常に貴重な資料です。

軒丸瓦１Ａ型式（１期）

軒丸瓦１Ｂ型式（１期）

軒丸瓦３Ａ型式（３期）

軒丸瓦３Ｂ型式（３期）

軒平瓦（三重弧文）

【市重要歴史記念物】
「无射志国荏原評」銘文字瓦

影向寺遺跡出土瓦

菅寺尾台廃寺

川崎市多摩区寺尾台に所在する８世紀中葉頃に造営されたと推測される古代寺院です。1951・1952・1968（昭和26・27・43）年に実施された発掘調査で、八角形の基壇が確認され、法隆寺夢殿と同じく八角円堂（はっかくえんどう）が建っていたと推測されています。出土した瓦から、この建物は剣菱文様蓮華文（けんびしもんようれんげもん）という非常に特徴的な軒丸瓦や唐草文・重弧文の軒平瓦が葺かれていたことが分かっています。

軒丸瓦（剣菱文様蓮華文）

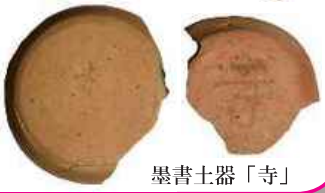
軒平瓦（唐草文）

岡上廃寺

川崎市の飛び地である麻生区岡上字栗畑に所在する８世紀中葉～後葉に造営されたと推測される古代寺院です。本格的な発掘調査は実施されていませんが、縁辺部の調査などで、軒丸瓦（剣菱文様蓮華文）や平瓦が発見されているとともに、「寺」と書かれた墨書土器などが出土しています。

軒丸瓦（剣菱文様蓮華文）

平瓦（斜格子叩き）


墨書土器「寺」

宮添遺跡・早野上ノ原遺跡・新作大原遺跡

市内で確認されている３ヶ所の古代寺院跡以外にも、宮添遺跡（麻生区はるひ野）、早野上ノ原遺跡（麻生区早野字上ノ原）、新作大原遺跡（高津区新作）など、いくつかの古代の遺跡で瓦が出土しています。

【早野上ノ原遺跡】

平瓦（斜格子叩き）

【新作大原遺跡】

軒平瓦（唐草文）

平成 28 年度かながわの遺跡展・巡回展
かながわの最初の現代人　―旧石器時代のヒトと社会―

発行日　平成 28 年 12 月 2 日
編　集　神奈川県教育委員会　教育局　生涯学習部
文化遺産課　中村町駐在事務所（神奈川県埋蔵文化財センター）
〒232-0033　横浜市南区中村町 3-191-1
TEL　045-252-8661　FAX　045-252-8663
発　行　神奈川県教育委員会
印　刷　テクノヤマモト